

## 申命記 第6章 4節

「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。」

耳を与えてくれたお方が、聞きなさいと呼びかけます。こころを与えて下さったお方が、聞きなさいと呼びかけます。呼びかけを、何気なく聞き、何気なくこころで受けがちです。何を聞くのか、何がこころの耳に響いているのか、与えられた耳とこころの側の課題となります。

ここでは、そんなに沢山のことを聞きなさいとは呼びかけていません。そんなに多くのことをこころで受け止めなさいと言っておりません。聞くことは「主は私たちの神」であることです。そして、「主はただひとりである」ことです。二つの耳で、ひとつのこころに純粹に届く聞き方を私たちに迫ります。もみ殻のような言葉が流れる世に在って、余計なことばかり聞きがちな耳だからでしょうか。思い煩うこころだからでしょうか。だからでしょうか、シンプルに聞きなさい、と呼びかけます。

良く聞くと、私たちのあるべき姿、歩むべき道が耳から入り、こころに届き、存在そのものが形造られていきます。聞くことは、神を愛することです。聞くことは、こころに刻むことです。聞くことは、いつも唱えることです。聞くことは、みことばが生活化することです。